



福井県立大学
Fukui Prefectural University

福井県立大学大学院

Graduate School of
Fukui Prefectural University

2022

大学院案内
CAMPUS GUIDE



表紙の解説

福井が生んだ 養殖ブランド 「よっばらいサバ」と 「ふくいサーモン」



海洋生物資源学部 先端増養殖科学科長(予定者)
海洋生物資源臨海研究センター長

とみなが おさむ
富永 修

表紙は福井を代表する養殖ブランド「よっばらいサバ」と「ふくいサーモン」のお刺身の盛り合わせです。よっばらいサバの研究は、「御食国若狭と鯖街道 海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群」が日本遺産第一号の認定(2015年)を受けたことを背景に、資源が激減したマサバの復活をめざした「鯖、復活プロジェクト」ですすめられました。ブランド名の「よっばらいサバ」は、マサバに酒粕を配合した餌料を与えることから命名されました。魚に酒粕を与えることは初めての試みでしたが、官能試験で検証したところ、通常餌で飼育したマサバの刺身と比べて、魚臭さが少なくおいしいという評価を得ました。同時に行った化学分析では、日本酒の香り成分である酢酸エチルや柑橘系の香りであるリモネンがよっばらいサバから検出され、これらの成分がおいしさを担う要因の一つになっている可能性が示唆されました。

ふくいサーモンは、海で養殖をするニジマスのごとで、産学公が連携して立ち上げたコンソーシアムを基盤に、2015年に新しく始められた養殖対象種です。1月頃に孵化した稚魚を淡水の養魚場で約1年かけて体重400～500gまで育て、海水に馴致した後、12月頃に海面の養殖生簀に移します。海では急激に成長し、出荷最盛期の4～5月には約2kgにまで成長します。福井県では、淡水養成に使う湧水の水温が低すぎないことや海面の適水温期間が長く、1年半で養殖サイクルを完結できます。事業が始まり3年目には生産量が100tを超え、それまで海面養殖の中心であったフグ類やマダイよりも多くなりました。

福井県立大学は福井県水産課、福井県栽培漁業センター、県内企業などと連携して研究開発を進めてきました。しかし、水圏生物の養殖研究では、経済価値の高い品種の開発、スマート養殖システムの開発など、チャレンジングで有望かつ世界的に期待される課題が残されています。福井県立大学は、2022年4月に海洋生物資源学科に加えて「先端増養殖科学科」を新設し、日本で初めて増養殖に特化した研究体制を整え専門家の養成をすすめます。

(表紙のよっばらいサバは田鳥水産株式会社、ふくいサーモンは福井中央魚市株式会社からの提供/皿は越前焼)

学長からのメッセージ



経済・経営学研究科(地域・国際経済政策専攻、経営学専攻、経済研究専攻)
生物資源学研究科(生物資源学専攻)、看護福祉学研究科(看護学専攻、社会福祉学専攻)
経済学部(経済学科、経営学科)、生物資源学部(生物資源学科)
看護福祉学部(看護学科、社会福祉学科)、学術教養センター
地域経済研究所、恐竜学研究所
永平寺キャンパス

生物資源学研究科(生物資源学専攻)
生物資源学部(創造農学科)
生物資源開発研究センター
あわらキャンパス

生物資源学研究科(海洋生物資源学専攻)
海洋生物資源学部(海洋生物資源学科、
先端増養殖科学科)
海洋生物資源臨海研究センター
小浜キャンパス

研究の質を高め、視野を広げながら 社会に貢献する

福井県立大学大学院では、看護福祉学研究科の博士後期課程開設に向けた検討が進んでおり、これにより3研究科7専攻の博士課程が完結することになります。この後期課程の特色、社会的要請への対応として、研究対象をより広く検討し、医療、健康や福祉、さらには経済・社会・生活分野も視野に入れた学際的で総合的で有意義な新しい研究科を目指しています。

また本学では、創造農学科、先端増養殖科学科に続き、恐竜学部(仮称)の新設に向けた計画づくりも進めています。福井県の恐竜研究は世界的にも高く評価され、すべての恐竜の時代の化石を内包する北谷という全国でも特異な地層に恵まれ「恐竜王国・福井」で知られています。既に生物資源学研究科では「古生物学専門種目」として大学院生が在籍して活発な研究発表が続けられています。そこで本学としては、新学部設置により裾野の広い、しかも高いピークの世界的研究拠点を具現化し、これまで蓄積してき

た研究成果の上に気候変動など特に地球的課題にも対応する国際的な学術拠点を目指します。

大学院で学びたいという社会人は、増えていきます。入学後、非常に優れた論文をかき、博士号を取得した方もたくさんいます。高齢社会においては、ライフワークを極めたいと思う人が増えるのは自然な流れであり、そうした方々の受け皿となることも大学院の大切な役割です。

さらに、大学の研究成果は社会に還元してこそ意味があります。本学は2020年に2つのベンチャー企業を立ち上げ、その一つは、微生物から精製した化合物を使用した医療材料などを開発しています。もう一つは、新品種の作出とその普及に関するものです。今後も食、環境、福祉、経済など人間生活の基本を支えることに不可欠な学術分野を網羅する本学としては、その研究教育力を生かし、人々の暮らしや産業の発展に貢献していきたいと考えています。



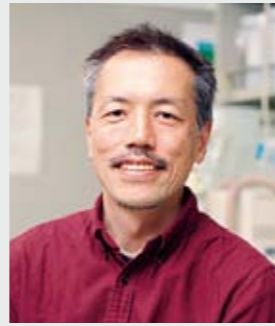
学長/農学博士
しんじ いそや
進士 五十八

研究科長からのメッセージ

大学院委員会委員長

AIを超えて創造的であれ

人工知能AIの発展は、計算予測による発見発明を可能にするかもしれません。しかし、TRIZなど発明の法則性をAIに適用した例で発明が掘りつくされていない現状は、人による知の創造がより重要なことを物語っています。前身から数えて100年の歴史を誇る福井県立大学は、地域の知の拠点としてさらなる進化が求められます。個性豊かな3つの研究科からなる本大学院は、多様かつ先端の研究環境と教員を提供することで、知を深く追求し、広い視野や豊かな創造力により社会に貢献する優れた人材を育て、地域の発展に寄与していきます。



生物資源学研究科／博士(農学)
ひび たかお
日井 隆雄

経済・経営学研究科

ライフサイクルに合わせた研究の場として

当研究科は2つの専攻に分かれています。1つは経済学基礎、地域公共政策、国際経済、特別講義、演習の区分を置く「地域・国際経済政策専攻」で、理論の修得を土台として実践との関わりを重視した研究を主眼としています。もう1つはマネジメント、企業会計・法務、国際経営、特別講義、演習の区分を置く「経営学専攻」(ビジネススクール)で、企業経営・管理に求められる専門職能の研究を主眼に高度な専門能力の修得を目指します。いずれの専攻においても、学部卒業後さらに深く学問を修めたい人、今自分が携わっている仕事を俯瞰して掘り下げたい現役社会人、これまで就いていた仕事を振り返って体系的にまとめてみたい定年退職者等幅広く受け入れ、専門的知識・能力を有する人材の育成や高度な学術研究をサポートします。



経済・経営学研究科長／修士(経済学)
ひろせ こうき
廣瀬 弘毅

生物資源学研究科

陸・水圏の生物資源を社会の持続可能性に役立てる

本研究科は、陸圏または水圏の生物資源をそれぞれ対象とする生物資源学専攻および海洋生物資源学専攻からなります。両専攻ともに、諸問題の解決に向けて、多様な領域にわたって生物資源に関わる教育と研究を行います。真理探求の精神・広い視野・豊かな創造力を持つとともに高度な専門性を備えた人材の育成を目指しながら、多彩な教員と最新の実験設備の下で、実践力を養い、陸・水圏の生物資源の開発と応用、生物機能の解明と応用、生物を育む環境の特性解明と保全に挑戦します。これらにより、優れた人材を育成するとともに、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献します。



生物資源学研究科長／博士(農学)
よこやま よしひろ
横山 芳博

看護福祉学研究科

看護と社会福祉の高い専門性と倫理観を兼ね備えた人材育成

本研究科の最も大きな特徴は、看護学専攻と社会福祉学専攻を両輪とすることです。これにより、医療・看護学から社会福祉学までの幅広い領域の学修ができます。それぞれの専門科目の学修・研究ばかりでなく、両専攻をまたいだボーダーレスなカリキュラムを組んでいます。研究において必要な専門知識、方法論、論理的思考や生命倫理を指導します。これによって、将来の研究者・教育者・高度専門職を担うリーダーとなりうる人材を育成します。

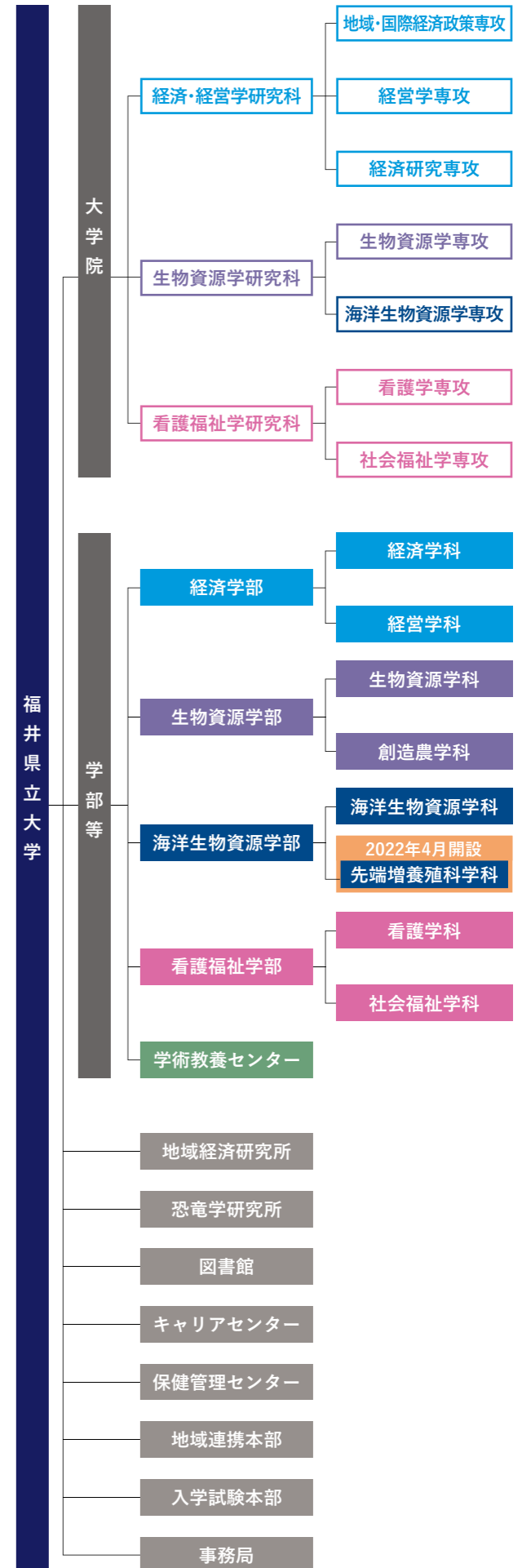


看護福祉学研究科長／博士(医学)
よねだ まこと
米田 誠

沿革

- 1920 福井県農業試験場内に福井県農業技術員養成課程を設置
- 1966 福井県農業短期大学校に改称
- 1975 福井県立短期大学(農学科、経営学科、看護学科)を開学
- 1982 第二看護学科を開設
- 1984 専攻科地域看護学専攻を開設
- 1992 開学[福井キャンパス(経済学部・生物資源学部)]
初代学長に坂本慶一が就任
- 1993 小浜キャンパス(海洋生物資源学科)、
生物資源開発研究センターを開設
看護短期大学部を併設
- 1994 看護短期大学部を福井キャンパスに移転
- 1996 大学院修士課程を開設
- 1998 大学院博士課程を開設
第2代学長に常脇恒一郎が就任
- 1999 看護福祉学部を開設
- 2001 看護短期大学部を閉学
地域経済研究所を開設
- 2002 学術教養センターを設置
- 2003 海洋生物資源臨海研究センターを開設
大学院看護福祉学研究科を開設
- 2004 第3代学長に祖田修が就任
- 2006 大学院にビジネススクールを設置
- 2007 公立大学法人に組織変更
- 2009 海洋生物資源学部を開設(小浜キャンパス)
- 2010 第4代学長に下谷政弘が就任
キャリアセンターを開設
- 2012 地域経済研究所にアジア経済部門を設置
- 2013 恐竜学研究所を開設
- 2016 第5代学長に進士五十八が就任
「福井県立大学オープン・ユニバーシティ構想」を発表
「福井キャンパス」の名称を「永平寺キャンパス」へ変更
- 2017 地域連携本部を開設
創立25周年記念シンポジウムを開催
ホームカミングデーを開催
- 2018 大学院生物資源学研究科生物資源学専攻に
古生物学専門種目を開設
大学院看護福祉学研究科看護学専攻に
看護マネジメント学領域を開設
- 2020 あわらキャンパス開設
生物資源学部創造農学科を開設
福井県立大学ブックレットシリーズ発行
- 2021 あわらキャンパスに生物資源学部創造農学科
教育棟を開設

組織図



MAJOR

博士前期課程 2年

地域・国際経済政策専攻

Major in Regional and International Policies

経済学に基づき、地域公共政策、国際経済の研究を行います。

修士論文を書いて、修士（経済学）の学位を取得できます。

博士前期課程 2年

経営学専攻(ビジネススクール)

Major in Business Administration

経営学に基づき、企業経営・管理の研究を行います。

修士論文、またはプロジェクト研究に取り組み、修士（経営学）の学位を取得できます。

博士後期課程 3年

経済研究専攻

Major in Economics and Policies

理論と政策を一体化させた高度な学術研究を行います。

博士論文を書いて、博士（経済学）の学位を取得できます。

こんな期待に応えます

- ▷ 研究者を目指したい。
- ▷ 税理士を目指したい。
- ▷ 政策形成能力を身につけた自治体職員になりたい。
- ▷ キャリア・アップを図りたい。
- ▷ 何が正しい経済政策かを判断できるようになりたい。
- ▷ 経済と社会について深い知識を身につけた教員になりたい。
- ▷ 現場の問題発見・問題解決能力を高めたい。
- ▷ キャリアをふまえた研究をしてみたい。
- ▷ 技術者としての経営能力を向上させたい。
- ▷ 定年退職を機にじっくりと体系的に学び直したい。



修士論文中間報告会



コンピュータ演習室
24時間365日利用できる



地域公共政策研究
本学教員・院生・修士生等による研究報告

短期ビジネス講座を開催しています

地元にあるビジネススクールのエッセンスを体験しませんか。時間がとれない方には「短期ビジネス講座」がおすすめです。土曜日全4回程度の集中開催です。

現代の社会は変化が激しく、知識や考え方をアップデートしていくことが求められています。この講座では、本学教員をはじめとして各界の第一人者がケース・スタディやディスカッションを交えながら、マネジメントの現場と理論を融合させた講義を行います。異業種・異世代の履修者と一緒に学び直しや「社会人脈」のきっかけづくりをしてみませんか。



2019年度の状況 21名の方が受講されました

CURRICULUM

[前期課程] 地域・国際経済政策専攻

区分	科目
経済学基礎	経済理論 経済政策特論Ⅰ 経済政策特論Ⅱ 財政学特論 人口特論 統計・計量Ⅰ 統計・計量Ⅱ 日本経済史特論 ワークショップ(情報・応用経済)
地域公共政策	地域経済特論 海洋ビジネス論 環境政策 食料・農業政策 公共管理論 公益事業特論 ワークショップ(地方行政論) ワークショップ(地域開発)
国際経済	国際経済特論 中国経済特論 ロシア経済特論 東アジア経済特論 ワークショップ(経済の国際化と中国)
特別講義	経済・経営学特別講義Ⅰ 経済・経営学特別講義Ⅱ
専攻演習	専攻演習Ⅰ 食料・農業政策演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 公共管理論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 中国経済特論演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 金融市場の統計的演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 経済理論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 日本経済史特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 地域経済特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 食料・農業政策論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 公共管理論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 国際経済特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 中国経済特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ ロシア経済特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 東アジア経済特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 専攻演習Ⅱの科目を継続履修

[前期課程] 経営学専攻

区分	科目
マネジメント	現代経営学 経営財務戦略論 経営情報特論 生産管理・生産革新論 経営戦略特論 実践コンサルティング論 企業経営のためのケース分析 現代企業論 経営品質論 マーケティング戦略論 人的資源管理特論 ワークショップ(ベンチャー企業・起業(創業)論) ワークショップ(社会システム論)
企業 会計・法務	会計学特論 管理会計特論 企業の財務報告・監査 経営分析と企業評価・証券市場論 ビジネス法務 企業経営と法 税法 会計制度論
国際関係	国際ビジネス論 国際比較経営論 グローバル経営戦略論
特別講義	経済・経営学特別講義Ⅰ 経済・経営学特別講義Ⅱ
専攻演習	専攻演習Ⅰ 経営情報特論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 生産管理・生産革新論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ マーケティング戦略論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 人的資源管理特論演習Ⅰ 専攻演習Ⅰ 会計学特論演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 経営情報論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 生産管理・生産革新論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ マーケティング戦略論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 人的資源管理特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 会計学特論演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 企業経営と法演習Ⅱ 専攻演習Ⅱ 税法演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 専攻演習Ⅱの科目を継続履修

(注)年によって開講されない科目があります。

前期課程の両専攻とも看護福祉学研究科社会福祉学専攻の下記授業科目を履修可能です。

社会福祉	社会政策特論	社会保障特論	社会福祉管理・経営特論	社会調査特論	社会福祉環境特論
------	--------	--------	-------------	--------	----------

[後期課程] 経済研究専攻

研究分野	科目
応用経済学研究	応用(マクロ・ミクロ)経済学特別演習Ⅰ 応用(マクロ・ミクロ)経済学特別演習Ⅱ 応用(マクロ・ミクロ)経済学特別演習Ⅲ
地域経営研究	地域経済論特別演習 財政・文化経済学特別演習 地域産業論(農業)特別演習 経済学史特別演習
経営管理研究	会計学特別演習 現代経営学特別演習 労働経済論特別演習 現代日本企業論特別演習
北東アジア 経済研究	東アジア比較経済史特別演習 北東アジア経済特別演習 中国経済論特別演習 ロシア経済論特別演習

(注)年によって開講されない科目があります。

INTERVIEW

▷ 実務に生きる学びの楽しさと多様な人との出会いが魅力



在學生／経営学専攻 **今田 景子さん**
[会社員]

大学院を卒業することで税理士資格の一部科目が免除となるため、税理士資格取得を目的に入学しました。勤めている金融機関で税務に触れる機会が多いのですが、実務上は白黒はっきりしないことも多く、そんな税務上グレーな処理について数多くの判例や先行論文等を学問の面からしっかり学べるところが魅力です。様々な職種の方と交流できることで多様な視点を得られ刺激になりますし、少人数制なので先生に質問がしやすく、授業時間も柔軟に対応していただけます。学びを深め、視野を広げたいと考えている方はぜひ一緒に学びましょう。

▷ 体系的かつ理論的に修得する一生もの大きな学び

これまでの会社経営の集大成として経営学の修士号を取得し、自らの能力とビジネスの幅を広げるため進学しました。専門は若年層のキャリア教育です。経験則からの知識や自己流で取り組んできた事柄を学問として整理できることは大きな学びであり、今後役に立つ知識を体系的かつ理論的に学べます。社会人を中心とした、実務に即したカリキュラムも魅力的です。

院生には多様な分野の社会人が多く、意見交換を通して自身の視野が広がり、仕事にも役立っています。大学院での学びは、仕事や勉強に限らず今後の人生において幅広く活用していけるでしょう。



在學生／経営学専攻 **平泉 沙由里さん**
[会社役員]

▷ 縦に繋がるのではなく、横に繋がり、自由な研究から思慮を深めることができる場所

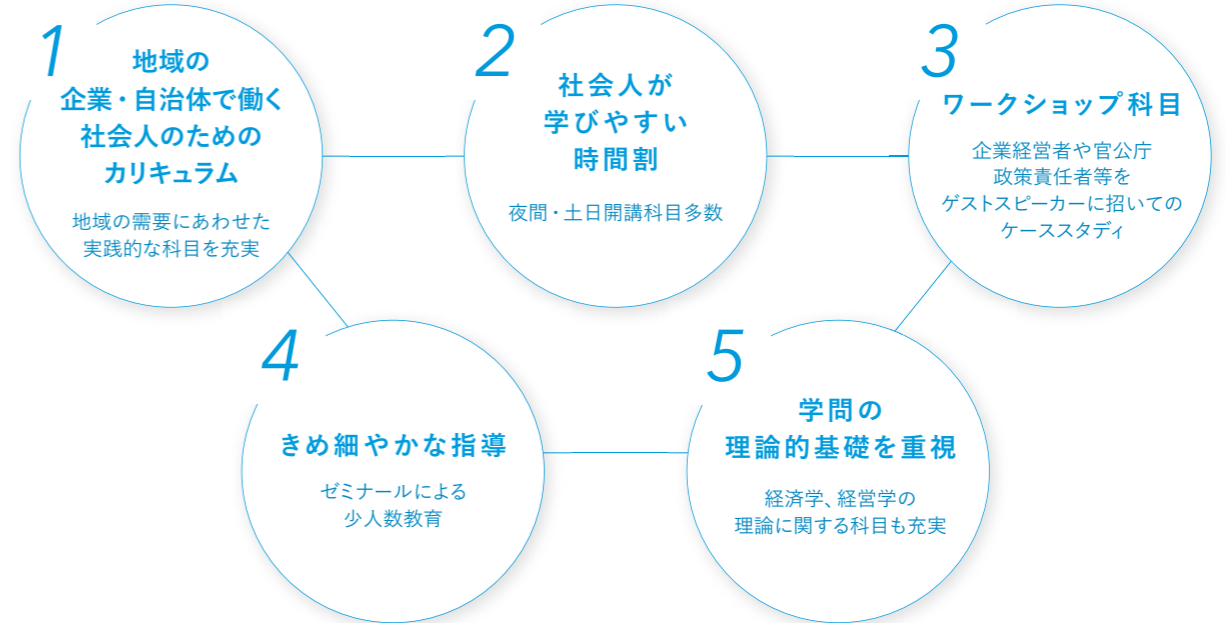


修了生 **瀬戸 康次郎さん**
／地域・国際経済政策専攻 [元会社員]

大学卒業以来、40年近く奉職してきた農協組織について、定年退職・退官後、より客観的な視点に立って研究してみたいという思いから、農業全般及び農業協同組合の歴史・組織・組合員と暮らしなどの研究を行いました。

大学院では、双方向で意見を戦わせるといった側面があり、自分の頭で考え、研究し、自分なりの意見を持ちつつ、先生に指導して頂くといった学びで、その分知識だけではなく、理念や深い流れについて学ぶことができると感じました。また、自由に研究テーマを定め、その研究の方向性について指導していただいたことで、多くのことを学ぶこともできました。

経済・経営学研究科の特徴



指導教員

地域・国際経済政策専攻	廣瀬 弘毅 研究科長／教授 経済理論 経済理論の持つ規範的側面と方法的基礎付けについての研究。	新宮 晋 教授 経済政策特論 II 経済政策の政治哲学的評価に関する考察。	杉山 泰之 教授 国際経済特論 貿易と貿易政策、生産要素の国際移動、貿易と環境に関する研究。	唱 新 教授 東アジア経済特論 中国の産業と貿易、対外政策、東アジアとの経済関係に関する研究。
	鄭 海東 教授 中国经济特論 革命後の農村改革と中国の経済成長との関係に関する研究。	中西 泰之 教授 人口特論 トマス・ロバート・マルサスの経済人口学および人口思想の研究。	南保 勝 特任教授 地域経済特論 地域経済、繊維や眼鏡枠などの地場産業、産学連携に関する研究。	Andrey Belov 教授 ロシア経済特論 ロシア財政・地域経済に関する研究。
	堀田 学 教授 食料・農業政策特論、地域産業論 農産物の生産・流通と地域活性化研究。	山崎 茂雄 教授 公共管理論 文化芸術を活かした観光や地域再生、学術コンテンツ開発の研究。		
経営学専攻	内川 毅彦 特任教授 税法 消費税を巡る諸問題に関する研究。	北島 啓嗣 教授 マーケティング戦略論 SCなど外部経営資源を利用する企業の競争優位の研究。	木野 龍太郎 教授 生産管理・生産革新論 企業間分業を通じたモノづくりの技術蓄積・発展に関する研究。	徳前 元信 教授 会計学特論 企業や組織の透明性を高めるための利益情報作成に関する研究。
	飛田 正之 教授 人的資源管理特論 企業における人材育成、キャリア形成に関する研究。	福山 龍 教授 企業経営と法 中小企業の経営と法に関する研究。	藤野 秀則 准教授 経営情報論、情報管理論 産業システムの安全管理や安全文化に関する研究。	

CLOSE UP!

医療施設におけるサービス風土が従業員と顧客に与える影響について

外部環境の激しい変化の中で高い顧客満足を実現するために

修了生／経営学専攻 **竹内 将さん**
[会社員]



研究した内容を職場へプレゼン

本研究では、上記のテーマについて、サービス風土とサービス・プロフィット・チェーンの概念を用いて明らかにしました。医療施設で長年集積された顧客満足度調査のデータをもとに、サービス風土と従業員、顧客の知覚品質の関係を検証し、サービス風土を高めることで従業員の内部サービス品質や従業員満足が高まることを明らかにしました。さらに、サービス風土は顧客の知覚品質と高い相関があり、その結果、顧客満足が高まり顧客ロイヤリティにつながるというように、顧客との関係性が強まる傾向があることも明らかとなりました。コロナ禍のような急速な環境変化に対応できる柔軟な経営体制を構築するには、組織全体でビジョンや価値観を共有し、組織風土を醸成していくことが重要であり、まさに本研究が役に立つと考えます。

MAJOR

生物資源学 専攻

Major in Bioscience and Biotechnology

生物資源学専攻は、次の5つの専門種目で構成され、食料・生命・環境に関する基礎的研究を精力的に展開するとともに、実用化を目指した応用的研究も活発に行っています。



生物資源開発研究センター

CURRICULUM

【前期課程】

▷ 基礎科目

分子生物学 植物分子生物学 応用分子細胞生物学 分子生物学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 分子生物学専攻実験Ⅰ・Ⅱ	応用生化学 構造生物学 生体機能分子工学 応用生化学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 応用生化学専攻実験Ⅰ・Ⅱ
---	--

植物資源学 遺伝資源学 生物生産環境学 植物資源学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 植物資源学専攻実験Ⅰ・Ⅱ	古生物学 生物進化学 地球環境史学 古生物学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 古生物学専攻実験Ⅰ・Ⅱ
---	---

分子機能科学 微生物機能学 食品機能化学	分子機能科学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 分子機能科学専攻実験Ⅰ・Ⅱ
----------------------------	--------------------------------

▷ 専門科目

天然分子機能学 生体物理化学	保全植生学特論 植物発生遺伝学特論	薬物作用学
-------------------	----------------------	-------

▷ 研究科共通の授業科目

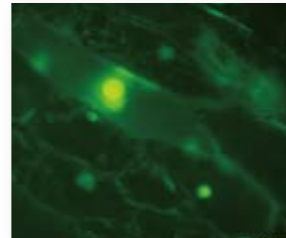
分子進化学特論 生命機能有機化学特論 光合成特論	生殖生物学特論 動物遺伝子工学特論 細胞培養工学特論	食料・農業政策特論
--------------------------------	----------------------------------	-----------

【後期課程】

▷ 専門科目

分子生物学 分子生物学特別演習 植物資源学 植物資源学特別演習	分子機能科学 分子機能科学特別演習 応用生化学 応用生化学特別演習	古生物学 古生物学特別演習
--	--	------------------

分子生物学



生化学、分子生物学、分子細胞生物学の手法を用いて、高等植物細胞の諸機能を支える遺伝子やタンパク質の働きを解明することを目指しています。具体的には、高等植物が保持するシグナル情報伝達系、病害抵抗性、プログラム細胞死の仕組みを解明しています。更に、これらの成果を応用して新規植物資源の開発を試み、食糧分野や環境分野への貢献を目指しています。

指導教員

教授 いしかわ あつし 石川 敦司 高等植物の病原菌に対する抵抗性に関する研究。	教授 いわさき ゆきもと 岩崎 行玄 イネ3量体Gタンパク質シグナリングの研究。	教授 なかした ひでお 仲下 英雄 生物的・非生物的ストレスに対する植物の適応機構に関する研究。
准教授 かとう ひさはる 加藤 久晴 植物の病害抵抗性および植物病原菌の病原性に関する研究。	准教授 みうら こうたろう 三浦 孝太郎 イネの遺伝子を効率よく利用し、収量増加を目指した育種研究。	

植物資源学



栽培植物およびそれに近縁の野生植物について、現地調査、採集材料・実験系統の遺伝分析を行うとともに、有用形質の発現機構を分子生物学的に解析し、その育種利用を図っています。植物と環境の相互作用を生態学的、生理学的に究明するとともに、環境保全に配慮して植生を管理する方法や植物の機能性を高める方法を開発しています。

指導教員

教授 かざま ゆうすけ 風間 裕介 染色体の構造変化が植物の形態や進化に及ぼす影響の研究。	教授 むらい こうじ 村井 耕二 植物の花芽形成の遺伝子の研究に基づいた農作物の遺伝・育種学に関する研究。	准教授 しおの かつひろ 塩野 克宏 環境ストレス(主に過湿と乾燥)に対する植物の適応機構の研究。
准教授 ふかお たけし 深尾 武司 植物の環境適応の分子メカニズムの解明や適応力向上のための研究。	准教授 みずぐち あき 水口 亜樹 農業と生態系との関わりに関する研究。雑草の生き方の研究。	

分子機能科学



有用微生物の探索、微生物機能に関する基礎および応用研究を行い、微生物および酵素を応用した産業的有用物質の生産とその機能の開発を目指しています。各種食品成分が示す多彩な生理機能を動物個体や組織・細胞レベルで究明し、機能発現機構を解明するとともに、微生物酵素などを利用した機能性食品の創製を目指した基礎研究を行っています。

指導教員

教授 いとう たかし 伊藤 崇志 抗老化作用、筋肉の衰えに対して有効な食品成分についての研究。	教授 きもと ひさし 木元 久 微生物を農業資材や機能性食品、環境浄化に応用する研究。	教授 はまの よしみつ 濱野 吉十 微生物が生産する天然有機化合物の生成に関する研究。
特命教授 むらかみ しげる 村上 茂 農産物や食素材の機能性、特に生活習慣病の予防効果に関する研究。	准教授 たかはし まさかず 高橋 正和 農産物・食素材の抗炎症作用など、食品の健康機能に関する研究。	准教授 まるやま ちとせ 丸山 千登勢 微生物が生産する生理活性物質の探索と生成の研究。

応用生化学

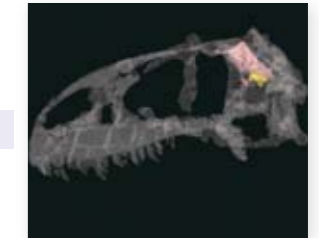


生体機能の解明とその工学的応用に関する基礎研究として、タンパク質・酵素の立体構造解析、タンパク質工学を利用した機能改変、新規分子素子の設計および高感度分析法の開発、バイオセンサーやバイオ電池の開発、生物電気化学的手法を用いた生体膜モデル系の基礎研究とその応用に関する研究などを行っています。

指導教員

生物資源学専攻主任/教授 ひび たかお 日弁 隆雄 生体高分子の構造生物学と酵素高活性化などの工学的研究。	教授 いとう たかふみ 伊藤 貴文 酵素・タンパク質の機能解析とその応用に関する研究。	教授 かたの はじめ 片野 肇 天然物を中心とした、物質の単離精製法および分析法の研究。
准教授 うえまつ こうへい 植松 宏平 電気分析法による生体関連反応の解明とその応用に関する研究。		

古生物学



古代の生命の記録である化石を用いて、生命進化や古環境を解明することを目指しています。特に恐竜を中心とした脊椎動物化石について、国内外の野外調査を重視しながら、CTを使った頭骨の内部構造の解析や現生脊椎動物との比較研究、恐竜時代の脊椎動物の分類学的・生態学的研究を行っています。

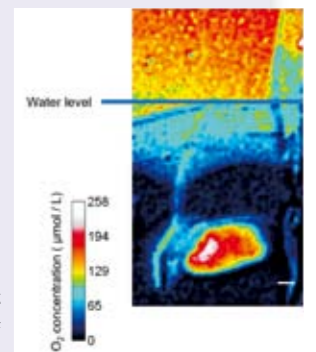
指導教員

教授 にし ひろし 西 弘嗣 浮遊性有孔虫とよばれる微化石を用い、特に恐竜時代に焦点を当てた古環境の解析。	准教授 かわべ そういちろう 河部 壮一郎 鳥類を含む恐竜や哺乳類の脳形態に関する研究。	准教授 しばた まさてる 柴田 正輝 福井県およびタイや中国で発掘した鳥脚類の研究。
---	--	--

CLOSE UP!

植物の適応応答から これからの環境対応へ

准教授 **塩野 克宏**



酸素の少ない水中で、湿地に適応したイネが発芽するときの酸素動態を可視化

植物の環境応答のイメージング

動き回ることができない植物は、刻々と変化していく環境にあわせて適応応答をしています。植物の適応応答に関わる分子や植物をとりまく環境を時空間的に可視化する最新技術をつかって、植物のしなやかな適応応答の理解を試みています。

この研究により植物の環境応答メカニズムを理解することは、これからの気候変動に対応できる作物の品種改良に応用できます。植物をとりまく環境のイメージング、センシング技術の開発は化学的、工学的な分野への応用も可能です。

MAJOR

海洋生物資源学専攻

Major in Marine Bioscience

海洋生物資源学専攻は、次の5つの専門種目で構成され、海洋環境の保全と制御、海洋生物資源の育成、食糧等への有効利用に関する研究を行っています。



海洋生物資源臨海研究センター

CURRICULUM

[前期課程]

▷ 基礎科目

水圏生物学 藻類学 水圏生物学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 水圏生物学専攻実験Ⅰ・Ⅱ	海洋生物資源利用学 生物資源利用学 食品機能化学 海洋生物資源利用学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 海洋生物資源利用学専攻実験Ⅰ・Ⅱ
海洋生物培養学 海洋生物育成学 海洋生物培養学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 海洋生物培養学専攻実験Ⅰ・Ⅱ	海洋社会科学 海洋社会科学 海洋社会科学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 海洋社会科学専攻実習Ⅰ・Ⅱ

海洋生態環境学

海洋生態工学	海洋生態環境学専攻演習Ⅰ・Ⅱ
海洋微生物生態学	海洋生態環境学専攻実験Ⅰ・Ⅱ

▷ 専門科目

専門特別講義Ⅰ～Ⅵ	海洋生態環境学特論Ⅰ・Ⅱ	海洋ビジネス論
水圏植物学特論	海洋生物資源利用学特論Ⅰ・Ⅱ	水圏遺伝資源学特論
海洋生物培養学特論Ⅰ・Ⅱ	水産政策学特論	

▷ 研究科共通の授業科目

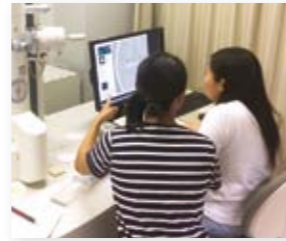
分子進化学特論	生殖生物学特論	食料・農業政策特論
生命機能有機化学特論	動物遺伝子工学特論	
光合成特論	細胞培養工学特論	

[後期課程]

▷ 専門科目

水圏生物学 水圏生物学特別演習	海洋生態環境学 海洋生態環境学特別演習	海洋社会科学 海洋社会科学特別演習
海洋生物培養学 海洋生物培養学特別演習	海洋生物資源利用学 海洋生物資源利用学特別演習	

水圏生物学

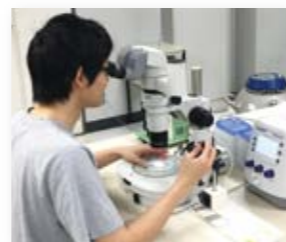


水圏の一次生産を担う藻類を対象に、生物多様性や適応進化、形態形成や生活環の制御機構、独立栄養や繁殖に関する生理生態などの解明ならびにその応用に関する教育・研究を行っています。

指導教員

教授 さとう しんや 佐藤 晋也 微細藻類の多様性やゲノム進化に関する研究。	教授 よしかわ しんや 吉川 伸哉 藻類の形態形成及び生理学に関する研究。
--	---

海洋生物培養学



水圏生物の増殖技術と多様性保全の新たな展開を目指し、海洋生物学、海洋動物生理学、遺伝学、ゲノム科学、生物地球化学、水圏生態学、行動学、水産資源学、海洋動物培養学、水族病理学などを基礎として、理論的および応用的な教育・研究を行っています。

指導教員

教授 すえたけ ひろあき 末武 弘章 免疫機構などの魚類の体のしくみに関する研究。	教授 たはら だいすけ 田原 大輔 淡水カジカ類の生理生態学的研究。アラレガコに関する研究。	教授 とみなが おさむ 富永 修 沿岸域の生物生産・生物多様性を陸域生態系とのつながりから研究。
准教授 こきた ともゆき 小北 智之 魚類における適応と種分化の生態ゲノミクスに関する研究。	准教授 すぎもと りょう 杉本 亮 水圏の物質循環・生物生産に関する生物地球化学的研究。	准教授 たきざわ ふみお 瀧澤 文雄 魚類の病原体や微生物叢に対する免疫応答に関する研究。

海洋生態環境学



海洋・湖沼などの水圏生態化学・微生物学および海洋環境物理学・水理学などを基礎とし、生物活性と物理的環境形成の相互作用ならびにその応用に関する教育・研究を行っています。

指導教員

教授 かねだ あつし 兼田 淳史 海流の流動構造、魚場環境のモニタリングに関する研究。	教授 こんどう りゅうじ 近藤 竜二 海洋や湖沼などの水圏環境の微生物の生態に関する研究。	教授 せと まさぶみ 瀬戸 雅文 藻場、砂泥域、養殖場における生息場の造成・管理に関する研究。
准教授 かたおか たかふみ 片岡 剛文 環境中の物質循環に関わる微生物を対象とした生理・生態学的研究。	准教授 たかお よしたけ 高尾 祥丈 海産真核微生物・水圏ウイルスの生理・生態学的研究。	准教授 たなか ゆうき 田中 祐希 沿岸海洋環境の変動を支配する渦・波動・乱流混合などに関する力学的研究。

海洋生物資源利用学



海洋生物資源を食料など生命関連素材として高度利用するため、それらに含まれる各種生体成分の構造と機能の解明ならびにその応用に関する教育・研究を行っています。

指導教員

研究科長/教授 よこやま よしひろ 横山 芳博 海洋生物に含まれる成分の美味しさや健康機能性に関する研究。	教授 みずた しょうし 水田 尚志 魚介類細胞外マトリックスタンパク質の有効利用に関する研究。	准教授 いまみち よしたか 今道 力敬 水産物由来の機能性成分に関する研究。
准教授 しもはた たかあき 下畑 隆明 食品に含まれる、病原性細菌に関する研究。	准教授 ほそい まさこみ 細井 公富 牡蠣や鯖など地域の水産物の食品化学的研究。	准教授 まつかわ まさひと 松川 雅仁 冷凍すり身・エビ類・県特産魚肉加工品の品質改良に関する研究。

海洋社会科学



食料産業としての水産業の産業的役割を重視し、漁業管理や食品の流通、海洋レジャーなど海洋と水産資源との利用調整の問題について、社会科学の立場からの教育・研究を行なっています。

指導教員

准教授 とけし つとむ 渡慶次 力 水産業システムの最適化を目指したスマート水産業に関する研究。	准教授 ひがしむら れいこ 東村 玲子 ズワイガニの世界的なフードシステムと漁業管理に関する研究。
--	---

CLOSE UP!

パファンウニの資源増大で地域の食文化を守りたい

准修了生 **仲野 大地**さん
[公務員]



潜水調査でのウニの採集

DNAバーコーディング法を用いたパファンウニの摂餌海藻の同定手法の開発

日本三大珍味の一つである「越前雲丹」。原料にはパファンウニの生殖巣が使われていますが、ウニの漁獲量は近年激減しています。地域の食文化を守り、良質な生殖巣を持つパファンウニの生産量を増やすために、DNAバーコーディング法を用いてパファンウニの消化管内容物からウニが食べていた海藻を特定しました。また、それらの海藻を食べたパファンウニの品質が良いことも分かりました。

生物が食べているものを知ることは、その生物を理解するための第一歩。それを詳細に把握できたことで生態に関する理解も進みました。本研究により、天然物と変わらない良質な生殖巣を持つパファンウニの養殖が可能になり、また、パファンウニにとって重要な海藻の分布域や量の調査により漁場の良否も把握できそうです。パファンウニの生産量や資源量の回復に繋がればと思っています。

MAJOR

看護学専攻

Major in Nursing Science

質の高い包括的なケアをめざして

教育目標

- ▶ 環境の変化に伴い多様化するヘルスケアニーズに応じて発展的・創造的に看護を実践する能力を養成する。
- ▶ 人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づく質の高い看護を提供する能力を養成する。
- ▶ 看護学発展の長期的展望に立ち、看護実践上の問題や課題の解決に向けた研究能力を養成する。
- ▶ 保健・医療・福祉分野の専門職や他職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を養成する。
- ▶ ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を養成する。

CURRICULUM

[修士課程]

▶ 共通科目

精神健康学特論 保健・福祉研究方法論
環境保健学特論 コミュニケーション特論

▶ 看護学専攻共通科目

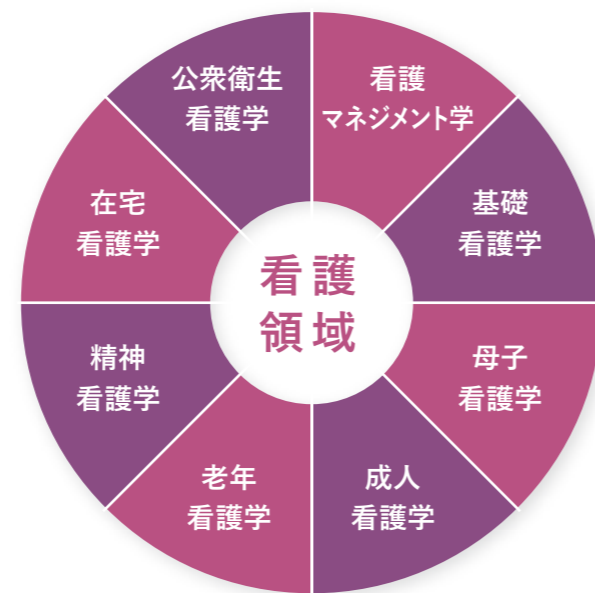
看護理論 看護研究方法論 看護倫理学
看護教育論 看護政策論 看護管理論

▶ 経済・経営学研究科との互換科目

経済理論 ワークショップ(地方行政論)
日本経済史特論 現代企業論
人的資源管理特論

▶ 専攻科目

看護マネジメント学 看護マネジメント学特論 看護マネジメント学演習 看護マネジメント学特別研究	老年看護学 老年看護学特論 老年看護学演習 老年看護学特別研究	在宅看護学 在宅看護学特論 在宅看護学演習 在宅看護学特別研究
基礎看護学 基礎看護学特論 基礎看護学演習 基礎看護学特別研究	母子看護学 母子看護・保健学特論I 母子看護・保健学特論II 母子看護学演習I 母子看護学演習II	公衆衛生看護学 公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護学特別研究
成人看護学 成人看護学特論 成人看護学演習 成人看護学特別研究	精神看護学 精神看護学特論 精神看護学演習 精神看護学特別研究	その他 成人・老年保健学特論 成人・老年保健学演習 養護概説特論 養護概説演習



- 1 看護学専攻は看護マネジメント学、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母子看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学の8領域を設けています。
- 2 看護マネジメント学領域は日本看護協会の認定看護管理者審査要件を満たしています。
- 3 養護教諭一種免許状を有している人は、「養護教諭専修免許状」を取得できます。

修士論文タイトル(2019年度~)

- ▶ 中小規模病院における医師・看護師間の連携と退院支援実践との関連
- ▶ PNSにおいて新人看護師に関わる看護師の教育的役割遂行とバーンアウトとの関連
- ▶ 病棟看護師がとらえた師長の支援内容と組織風土との関連
- ▶ 臨床における看護職のパワーハラスメントと職務満足との関連
- ▶ 看護部長が看護師長への支援を通して自己成長を実感した対応の内容
- ▶ 介護保険施設入所高齢者の看取り期の判断を家族と共有するうえで看護師が抱える難しさとその背景に関する研究
- ▶ 就労妊婦の働きやすさに関連する要因

CLOSE UP!

負担の多い就労妊婦を
快適な職場環境で
サポートしたい

まきの あおい
修生 牧野 葵さん
[大学教員]



論文や図書を参考に研究中

就労妊婦の働きやすさに関連する要因

共働き夫婦が増えている現代において、妊娠しても就労を継続する女性が増加しています。妊娠に伴い心身ともに劇的な変化がある中で、就労が母体に負担をかけると、順調な妊娠経過から逸脱してしまう可能性が高くなることがわかっています。妊婦が快適と感じる職場環境で過ごすことは母子ともに重要であるため、就労妊婦が働きやすと感じる職場環境について研究しました。

本研究では、妊娠期間中に就労経験のある妊娠末期の初妊婦にアンケート調査を行い、7つの要因から関連度を統計学的に調べ、初妊婦が「働きやすい」と感じる職場環境に関連する要因を明らかにしました。本研究により、産科の医療従事者が就労妊婦を身体面だけでなく精神面・社会面でも支援しやすくなるほか、全ての就労妊婦が安心して働ける職場環境が整いやすくなると思います。

医療の高度化、要望の
多様化に、看護師として
対応するために

さかぐち だいすけ
修生 坂口 大介さん
[看護師]



日本医療マネジメント学会
学術総会で優秀演題賞を受賞

PNSにおいて新人看護師に関わる看護師の教育的役割遂行とバーンアウトとの関連

医療の高度化や患者の要望の多様化に対応するため看護業務の一環として、PNSの看護提供方式が多くの病院で開始され、あらゆる看護師がPNSで新人教育をするようになってきました。PNSでは、パートナーを組むことにより看護師間で濃密な人間関係を要していることからバーンアウトに陥りやすい傾向があると考え、この研究を始めました。量的記述的研究によって、教育的役割を遂行することがバーンアウトの予防につながる可能性があることが示唆されました。また、新人教育の経験のない看護師のバーンアウトを予防するためには、フレキシブルパートナーの経験を積ませることの必要性が示唆されています。

PNSという看護提供方式の中で新人教育に関わる看護師に対しての支援や、PNSにおける新人教育の発展に活かせることができると考えています。

指導教員

よねだ まこと
研究科長/教授 米田 誠
認知症・神経難病・老化
ミトコンドリアと活性酸素の側面からの生理・病態の解析。

ありた ひろみ
教授 有田 広美
成人看護学
手術を受けた患者の睡眠に関する研究、がん看護および慢性看護に関する研究。

おおかわ ようこ
教授 大川 洋子
母性看護学
女性の健康評価、不妊女性(夫婦)や就業女性の妊婦等を対象とした研究。

かさい きょうこ
教授 笠井 恭子
基礎看護学
自律神経や睡眠を整えるケアの開発に関する研究。

てらしま きよこ
教授 寺島 喜代子
老年看護学
認知症や要介護度が重度な高齢者の看護実践に関する研究。

なかに よしみ
教授 中谷 芳美
公衆衛生看護学
介護予防を推進する地域包括ケアシステム構築をめざした研究。

ひらい たかよし
教授 平井 一芳
公衆衛生学・疫学
地域や職域をフィールドとした予防医学、健康科学に関する調査・研究。

みずたに てつや
教授 水谷 哲也
内分泌学・生殖科学
卵巣や胎盤の機能調節メカニズムに関する研究。

あかがわ はるみ
准教授 赤川 晴美
小児看護学
学生の看護実践能力を支援する教育的役割に関する研究。

うめづ ちかこ
准教授 梅津 千香子
在宅看護学
在宅療養移行支援、意思決定支援、エンドオブライフケアに関する研究。

くまがい み
准教授 熊谷 あゆ美
成人急性看護学
周術期患者の創傷予防ケアに関する研究。

こじま あみ
准教授 小島 亜未
公衆衛生看護学
食行動など健康行動を促す保健指導プログラムの評価に関する研究。

なりた みつえ
准教授 成田 光江
医療福祉学
全年代・全領域地域包括ケアシステムに関する研究。

はせがわ こまこ
准教授 長谷川 小眞子
精神看護学
精神科看護師のフィジカルアセスメント能向上に関する研究。

ふしょう さなえ
准教授 普照 早苗
在宅看護学
退院支援・訪問看護を中心とした在宅看護及び家族看護、看護教育に関する研究。

MAJOR

社会福祉学専攻

Major in Social Welfare Science

尊厳ある生のために

目標

- ▶ 自由・平等・友愛の民主主義思想に基づいた教育・研究を行う。
- ▶ 人権を尊重する社会福祉実践・社会福祉政策に役立つ知識・技術・価値を追求する。
- ▶ 時代と社会のニーズに対応できる実践力を養う。
- ▶ 国際的動向を視野に入れた社会福祉学研究を行う。
- ▶ 地域における社会福祉の向上に資する専門職業人を養成する。
- ▶ 地域の社会福祉問題を解決するための研究能力と実践技術を高める。
- ▶ 個々人の生活の向上と社会の進歩に有用な思索を深める。

CURRICULUM

[修士課程]

▶ 共通科目

精神健康学特論	保健・福祉研究方法論
環境保健学特論	コミュニケーション特論

▶ 経済・経営学研究所との互換科目

経済理論	ワークショップ(地方行政論)
日本経済史特論	現代企業論
人的資源管理特論	

▶ 専攻科目

社会福祉学特論	精神保健学特論
社会福祉学演習	精神保健学演習
社会政策特論	児童・家庭福祉特論
社会政策演習	児童・家庭福祉演習
社会保障特論	高齢者福祉特論
社会保障演習	高齢者福祉演習
社会福祉援助特論(個別)	障害者福祉特論
社会福祉援助演習(個別)	障害者福祉演習
社会福祉援助特論(集団)	権利擁護特論
社会福祉援助演習(集団)	権利擁護演習
社会福祉援助特論(地域)	国際福祉特論
社会福祉援助演習(地域)	社会福祉管理・経営特論
社会調査特論	社会福祉環境特論
社会調査演習	学校ソーシャルワーク特論
精神保健福祉特論	福祉教育特論
精神保健福祉演習	



特徴

- 1 社会福祉学専攻は、北陸で最初に開設された福祉系大学院です。
- 2 毎年行われる研究報告ワークショップや中間発表会で研究のブラッシュアップを図ります。
- 3 修了生は、福祉・保健・医療・教育・司法・労働等の多方面の分野で全国的に活躍しています。

修士論文タイトル(2017年度～)

「生活困窮者への支援のあり方ー生活困窮者自立支援事業を通じて特に課題が多いと感じる40代・50代への生活再建支援ー」/「児童養護施設における愛着障害の現状と課題ー大舎制養護施設における実践をふまえてー」/「メイヤロフのケア論についてのー考察ー岩田靖夫 人間論からの接近ー」/「中国のコミュニティサービスの課題と今後の展望ー中国遼寧省順達社区の事例を通してー」/「ソーシャルワークにおける面接とスキル、その実践的展開についてー面接についてのー考察ー」/「アダム・スミス『道徳感情論』における「共感」概念の社会福祉的射程」/「地域における高齢者と若者による集いの場が高齢者の日常生活に及ぼす影響に関する研究」/「子ども劇場活動の考察」/「障害者の就労継続のために有効な支援に関する研究ー就労移行支援事業所における就労定着支援の現状を通してー」/「ルドルフ・シュタイナーの理論と実践についてのー考察」/「小児がん罹患児への病棟での遊びを用いた精神的なアプローチ実践」/「聖バルミナ・ミッションの衰退と解散に関する研究」/「保育所において医療的ケア児に保育を提供するためのプロセスに関する研究」/「不妊夫婦の家族形成ー産婦人科医の取組む「新生児特別養子縁組」を中心としてー」

CLOSE UP!

住民と作り上げた活動計画を形骸化させない仕組みとは?

みずかみ まさひろ
在学生 水上 真裕さん
[社会福祉協議会職員]



社協職員が地域福祉活動計画を意識しながら働くための仕組みづくり

現在、社会福祉協議会(以下社協)に勤務しています。社協では地域住民と協働して地域福祉を進めるために、数多くの住民ワークショップや会議を重ねて地域福祉活動計画を策定しています。策定して終わりではなく、計画をきちんと遂行するために、社協職員が計画を意識して日々の業務を行うための仕組みづくりを研究しています。

具体的には、人口規模や組織規模、計画策定の歴史などを元に数か所の社協を選定し、アンケート調査や聞き取り調査を行っています。計画の進捗管理体制や法人の研修体制、作成過程の職員の関わり方、意識などの調査結果データをもとに、職員に計画の内容を意識させる仕組みや仕掛けについて検討しています。計画を形骸化させないための仕組みや手立てを検討することで、策定した計画が生きた計画になることを目指しています。

支援困難な事例に対するアプローチの一助に

わたたに としなり
修了生 綿谷 聡成さん
[地域包括支援センター]



高齢者虐待対応における関係形成に関する研究 関係形成が困難な養護者に対するソーシャルワーカーのアプローチ

高齢者虐待対応において、その関係性構築のプロセス分析と考察を行いました。虐待をおこなった養護者の中でも、支援や介入の拒否、無関心といった、関係形成が困難な養護者に対する、行政直営の地域包括支援センターの社会福祉士(ソーシャルワーカー)が、いかに接近し、どのようななかかわりを通して関係形成を試みたかに焦点をあてました。

また、その接近方法がどのような特性や機能を有しているかについても検討し、それぞれ導き出されたアプローチの意義、活用の留意点、有用性などを明らかにすることをテーマに研究をすすめました。この研究結果が、虐待対応において、援助を拒否する養護者に対する支援関係構築ための実践技法として、あるいは他の支援困難な事例に対するアプローチの一助になればと考えています。

指導教員

教授
いまい ともみ
今井 朋美

ソーシャルワーク
若年性認知症やHIVなど制度の狭間にある福祉ニーズにおける援助モデルについての検討。

教授
おくにし えいすけ
奥西 栄介

高齢者福祉、高齢者ソーシャルワーク、高齢者ケアマネジメント
高齢者介護施設におけるケアマネジメントに関する研究。

教授
さの おさむ
佐野 治

地域福祉論、福祉計画論
福祉行政計画(および社協計画)の立案と策定、CSWの理論と実践手法に関する研究。

教授
つかもと としゆき
塚本 利幸

社会調査、ボランティア活動参加、男女共同参画、健康長寿
福井の地域特性と、健康や男女共同参画の関係、統計学的に研究。

教授
のりき さこん
法木 左近

保健・福祉研究方法論
真菌症の診断に関する研究、オートプシーイメージング(Ai)に関する研究。

教授
よしひろ じゅんいち
吉弘 淳一

児童・家庭福祉
子どもを取り巻く環境からの視点で子どもの理解に関する研究。

教授
よしむら りんべい
吉村 臨兵

社会政策、労働経済論
最低賃金制、契約労働、および公共サービスの労働市場に関する研究。

准教授
おかだ たかし
岡田 隆志

精神保健福祉ソーシャルワーク
自治体における精神保健福祉施策・活動、ソーシャルワーカーの現任教育に関する研究。

准教授
さかぐち まさひろ
坂口 昌宏

社会保障・生活保護
地域共生社会を実現するための社会福祉法制度の構築に向けた研究。

准教授
そう ま だいすけ
相馬 大祐

障害者福祉
身体障害や知的障害のある人の生活の場に関する研究。障害者の相談支援に関する研究。

准教授
はたけなか こう
畠中 耕

社会福祉史
近代日本における地域の社会福祉の歴史を研究。

准教授
ふな き しんすけ
舟木 紳介

ソーシャルワーク
外国人定住支援におけるデジタルメディアの活用に関する研究。

准教授
やまぐち りえこ
山口 理恵子

権利擁護と民法総則、成年後見制度
日常生活自立支援事業や成年後見制度等を中心に判断能力が不十分な人々の支援について研究。

長期履修制度

職業を有している等の事情により、2年(後期課程は3年)では履修が困難な場合、2年(同3年)分の授業料で3年または4年(同4年、5年または6年)かけて履修することができます。

ティーチング・アシスタント
(博士前期課程/修士課程)

学部の講義や演習等において、教育補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

フィールドワーク研修旅費助成
(博士前期課程/修士課程)

授業の一環として、実地調査、情報収集等の研究活動を行う場合において、その研修に要する旅費を助成します。

教育訓練給付制度

(経済・経営学研究科(博士前期課程)/看護福祉学研究科)
一定の条件(雇用保険上)を満たし修了した院生に対し、授業料等の2割(上限10万円)に相当する額をハローワークから支給する教育訓練給付制度の講座に指定されています。

リサーチ・アシスタント
(博士後期課程)

教員が行う研究プロジェクト等において、研究補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

学会参加旅費助成
(博士後期課程)

研究領域の最新情報の把握と自らの研究成果発表を行う場合において、その学会参加に要する旅費を助成します。

入学試験概要

【募集人員】

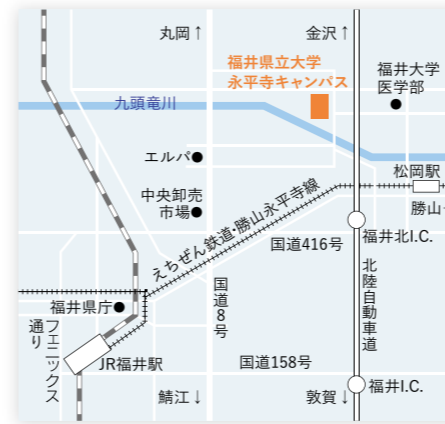
研究科	課程	専攻	入学定員	学内推薦				外国人留学生
				一般	社会人	外国人留学生	外国人留学生	
経済・経営学研究科	博士前期	地域・国際経済政策専攻	12名	6名程度	6名程度	若干名	若干名	
	博士後期	経営学専攻	12名	4名程度	8名程度	若干名	若干名	
生物資源学研究科	博士前期	経済研究専攻	4名	—	4名	—	—	
		生物資源学専攻	12名	—	12名程度	若干名	若干名	
	博士後期	海洋生物資源学専攻	12名	—	12名程度	若干名	若干名	
		生物資源学専攻	4名	—	4名	—	—	
看護福祉学研究科	修士	看護学専攻	10名	—	10名程度	若干名	若干名	
		社会福祉学専攻	6名	—	6名程度	若干名	若干名	

【試験科目】

研究科	課程	募集区分	外国語	専門科目	口述試験	小論文
経済・経営学研究科	博士前期	学内推薦			○	○ ※3
		一般	○ ※1	○	○	○ ※3
		社会人			○	○ ※3
		外国人留学生			○	○ ※3
	博士後期		○ ※2		○	
生物資源学研究科	博士前期	学内推薦 ※4			○	
		一般	○ ※2	○	○	○ ※3
		社会人			○	○ ※3
		外国人留学生			○	○ ※3
	博士後期		○ ※2	○	○	
看護福祉学研究科	修士	一般	○ ※2	○	○	○
		社会人			○	○
		外国人留学生			○	○

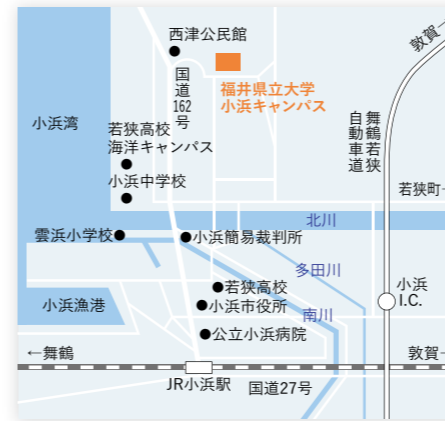
※1 英語・中国語から1科目を選択 ※2 英語 ※3 事前提出 ※4 海洋生物資源学専攻のみ

ACCESS MAP



永平寺キャンパス

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1
TEL 0776-61-6000(代) FAX 0776-61-6011
〈京福バス〉JR福井駅西口バスターミナル大学病院線「県立大学」下車(所要時間約40分)
〈乗用車〉JR福井駅より約20分
北陸自動車道 福井北I.C.より約10分



小浜キャンパス

〒917-0003 福井県小浜市学園町1-1
TEL 0770-52-6300(代) FAX 0770-52-6003
〈コミュニティバス〉JR小浜駅よりバス(あいあいバス)で約10分
「西津公民館前」下車 徒歩15分
〈乗用車〉JR小浜駅より約10分
舞鶴若狭自動車道 小浜I.C.より約5分



あわらキャンパス

〒910-4103 福井県あわら市二面88-1
TEL 0776-77-1443(代) FAX 0776-77-1448
〈乗用車〉永平寺キャンパスより約40分
北陸自動車道 金津I.C.より約15分



海洋生物資源
臨海研究センター

〒917-0116 福井県小浜市堅海49-8-2
TEL 0770-52-7305 FAX 0770-52-7306



※本誌に記載している写真の一部は2019年以前に撮影したものです。